科目ナンバリング	G-LAS10 80037 SJ36						
授業科目名<英訳>	文芸表象論演習2 Seminar on Literary Representation 2			担当者所属職名・氏名	人間・環境学研究科 准教授　須藤　秀平		
群	大学院横断教育科目群	分野(分類)	人文社会科学系			使用言語	日本語
旧群		単位数	2単位	週コマ数	1コマ	授業形態	演習（対面授業科目）
開講年度・開講期	2026・後期	曜時限	月4	配当学年	大学院生	対象学生	文系向

（人間・環境学研究科の学生は，全学共通科目として履修登録できません。所属部局で履修登録してください。）

[授業の概要・目的]

テーマ：近代ドイツ文学と通俗的なるもの

近代ドイツ文学は、必ずしも高尚な文芸作品によってのみ構成されていたわけではありません。この授業では、オーストリアの文学者、文化史家であるM・タールマンの著書『通俗的なるもののロマン主義Die Romantik des Trivialen』（1970）を原文で読み、18世紀の文学をめぐる状況がどのようなものであったか、また従来の文学史に対し現代のわれわれがどのように向き合うべきかについて考えます。

授業ではおもにドイツ語文献を精読します。担当者が訳文を作成し、それを共有して検討する形式にする予定です。進度は参加者の習熟度に応じて調整します。また、ゼミナール（＝演習）として、ご自身の研究内容についてレジュメを作って発表してもらいます。本演習には様々な分野の院生が参加してくれるはずですので、質疑応答を通じて専門外の人とも意見を交換することができます。ドイツ文学のほか、ドイツの歴史社会や思想史に関心がある人、ドイツ語テクストを読むことに慣れたい人を広く歓迎します。

[到達目標]

・ドイツ語で書かれたテクストを原典で読み、その内容を理解する。（技能）
・近代ドイツ文学の背景となる歴史社会についての知識を得る。（知識）
・現代日本とは別の文脈に生きた人々の思考法を理解することで、自分自身が関心を持つ問題について多角的に考える力を養う。（態度、志向性）

[授業計画と内容]

第1回　オリエンテーション
第2-4回　テクスト講読
第5回　これまでに得た知識をふまえて議論する
第6-8回　テクスト講読
第9-14回　研究発表会
第15回　フィードバック

[履修要件]

ドイツ語が読めること。とはいえ解説はゆっくり丁寧におこなうので、初級文法の知識があり、自ら学ぶ姿勢があれば歓迎します。
本科目は半期授業ですが、いわゆる「ゼミ」のような形で運営しますので、前期科目「ドイツ文芸思想論」も合わせて受講することをおすすめします。

文芸表象論演習2(2)へ続く↓↓↓

文芸表象論演習2(2)

[成績評価の方法・観点]

平常点（各回の発言や和訳、発表等）70%、レポート30%として総合的に評価する。

[教科書]

授業中に指示する
授業中にテクストを配布します。

[参考書等]

（参考書）
独和辞典が必要。

[授業外学修（予習・復習）等]

ドイツ語のテクストを精読するため、授業前の準備が重要となる。

[その他（オフィスアワー等）]

[主要授業科目（学部・学科名）]